

長明寺

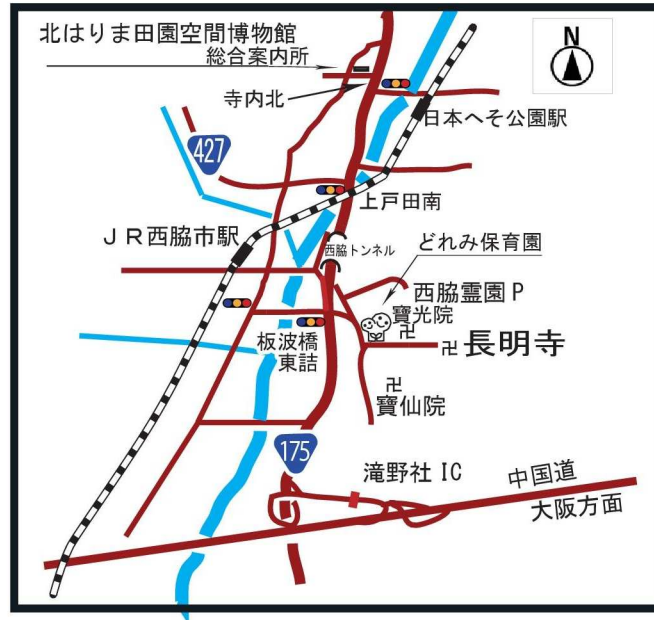
白雉年間(652年頃)法道仙人が開基されたと伝わる観音霊場で、ご本尊として十一面観世音菩薩と脇仏には不動明王・毘沙門天が安置されています。平安末期 源頼政が長明寺を厚く尊崇し、鎌倉時代には7堂伽藍36坊があったと伝わります。現代の本堂A阿弥陀堂、鎮守社、鐘楼、仁王門(山門B)は、天正17年(1589)の再建と伝わり、仁王像は、京の大仏師藤原右京康徳の寛文7年(1667)の作とあります。今、塔頭寺院として寶光院C寶仙院D仲正院Eがあります。

★春の桜、4月下旬～5月のつつじ、新緑、秋の紅葉と四季折々、頼政池、金城池に映える風景は特におすすめです。

頼政公と高松

保延2年(1136)頼政はこの地を訪れ、阿弥陀、八幡大菩薩の社宇を建立しました。仁平3年(1153)夏、夜毎丑の刻になると京、東三条の空に黒雲が現れ、御所の紫宸殿をおおうと鷓鴣の鳴き声が聞こえ、そのたびに近衛天皇はうなされ苦しまれ薬も祈祷の効もなく、これは雲の中に潜む妖怪の仕業となり、弓の名手、頼政に妖怪退治が命じられました。頼政は神仏に願をかけ、心魂こめて黒雲に向かって矢を放つと見事命中、落ちてきた怪物は体は狸、頭は猿、尾は蛇、手足は虎の姿であったといいます。頼政公、益々長明寺をうやまい、境内に阿弥陀如来をお祀りする一字を建立しました。頼政は平清盛の信頼も厚く源氏としては破格の従三位まであがります。しかし、平家の専横を良しとせず、平家打倒を計画しましたが露見、宇治平等院の戦いで敗れ自害。時に76歳、宇治平等院に葬られますが遺言にしたがって郎党により遺骨の一部が長明寺阿弥陀堂の近くに葬られました。時たつて慶長年間(1600年頃)、池田輝政は長明寺の境内に溜池の造成を命じ、墳墓と石柳は破壊され、その折り人骨とひと振りの剣が見出されました。それからおよそ100年後に円形古墳の上部に頼政公の墓が再建されました。

アクセス



- 北はりま田園空間博物館 総合案内所へは
 - ・北近畿豊岡自動車道氷上インターからR175を南へ車で30分
 - ・中国自動車道滝野・社インターからR175を北へ車で約20分
 - ・JR加古川線「日本へそ公園駅」から徒歩約20分
- 長明寺へは
 - ・R175、板波橋東詰め信号より東へ西脇霊園駐車場3分
 - JR西脇市駅から歩いて15分

もっとお知りになりたい方は

北はりま田園空間博物館発行「まるごとガイド」「北はりま魅力探訪紀行」、「でんくうガイドマップ」、または、ホームページをご覧ください。

お問い合わせ

NPO法人北はりま田園空間博物館

北はりま
田園空間
博物館

道の駅 北はりまエコミュージアム
〒677-0022 西脇市寺内 517-1
TEL: 0795-25-2370 FAX: 0795-22-2123
URL: <http://www.k-denku.com>
E-mail: jk@k-denku.com

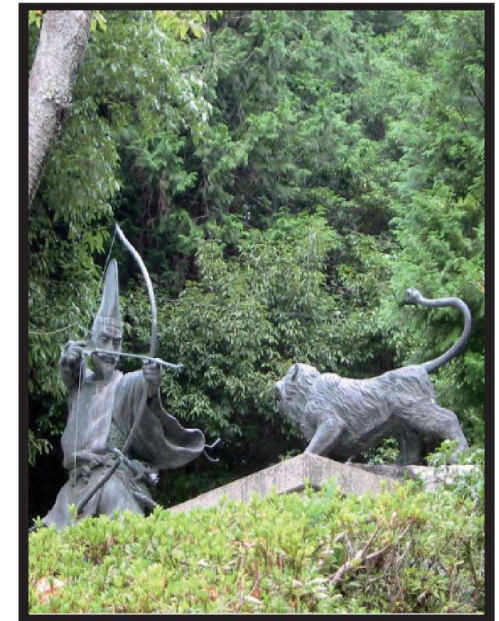
- ・営業時間: 9時～19時 (11月～2月は9時～18時)
- ・年末年始以外無休

ぶらぶら探検マップ

気軽に楽しめる半日コース No.2

高松山長明寺

頼政公ゆかりの里
を歩く



頼政又エ 退治の像

NPO 法人

北はりま田園空間博物館

